

## 2012 年 GNC モンゴルエコツアー(9 月 8 日～9 月 15 日)報告

### 1 トーラ村視察

【日時】

2012 年 9 月 9 日 13:00～15:00

【場所】

ウランバートル市ハンオール地区トーラ村

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

【参加者】

一橋大学大学院 木村奈津子

一橋大学大学院 トウギー

#### 1) 緑あふれるまちづくり

・村民と意見交換

①アユールブーネさん トーラ村 670 世帯のうち 220 世帯の地区長。一昨年 GNC が提供した苗木は順調に育っている。今後は、家を囲むようにニレを植えることを希望。家に招待していただき、スーテーツアイと手作りディルピクルスをごちそうになる。



②バダームハンドさん(妹) MIAT の元整備士。庭は美しくやる気に満ちていた。家に招待していただき、パン、エイツキ、チーズなどをごちそうになる。良い歌声も披露してくれた。地下温室を建てることを提案している。



③ニャムダーシさん 熱心だったがあまりうまくいっていなかった。



水を井戸から運ぶことは重労働で一番の問題点だが、やる気さえあればアユールブーネさんやバダームハンドさんのようにその問題をクリアして成果をあげているのも事実である。自発的なやる気を成功事例を示すことで喚起することが重要であろう。トーラ村とのコラボを今後どうするか（フィールドスタディ、フェアトレードなど）が今後の課題である。

## 2 GNC モデル農場視察

### 【日時】

2012年9月9日 15:00～17:00

### 【場所】

ウランバートル市ハンオール地区トーラ村

### 【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いつпей

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

【参加者】

一橋大学大学院 木村奈津子

一橋大学大学院 トウギー

1) 農場づくり

・ツォゴさんによる農場案内

1キロに渡る点滴システムを導入したことで、6月に防風林として植えた2000本のニレは順調に育っている。これらは、2.5ヘクタールの畑を取り囲んでいる。一昨年植えたものは家畜被害にあったものも多いが、残ったニレは大きく育っている。今後はニレの防風林、およびニレを中心に苗畑を充実させようとしている。建造中の日光温室も見学した。これが完成すれば冬が長いモンゴルで野菜栽培期間を伸ばすことができる。その後、ツォゴさんの工房と作業部屋を見学。日本で使えなくなった中古品を再生させている。ツォゴさんは将来、子供たちに機械について教える場を設けたいと考えている。



2) 人づくり

・GNC 教育センター設立

農場内に既にある研修・宿泊施設をより一層充実させ(名称は、GNC 教育センター)、今後は GNC の人づくり事業(フィールドスタディを含め)の拠点とする。センター長は、ツグトサイハンさん。

### 3 バヤンチャンドマン村視察

【日時】

2012年9月10日 10:30~16:00

【場所】

トゥブ県バヤンチャンドマン村

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフ バトゾリグ

【参加者】

一橋大学大学院 木村奈津子

一橋大学大学院 トウギー

滋賀大学 ドウルグーン

東京大学 ウンダーク

東北大学 ツェンゲル

#### 1) 苗畑づくり

・苗畑視察(10:30~11:20)

GNC Mongolia の苗畑を視察し、担当者のバトゾリグさんに、現状と解決すべき問題点、今後の展望について説明してもらった。トラクターの購入により効率性は増したが、競合する苗木会社が増えており、より一層市場ニーズにあった質の高い苗木を育てる必要がある。バトゾリグさんは、観葉植物、果樹、芝生づくり等を検討している。



#### 2) 緑あふれるまちづくり

・村民と意見交換(11:20~12:30)

2010年~12年に緑化支援を行った3軒を訪ねた。チュルーンバートさん、バドムハンドさん、ゾールさんの家である。担当スタッフのバトゾリグさんの指導のもと、毎年10軒ずつ、通算30軒がGNCが提供した苗木(サージ、ニレ、ポプラなど)を育てた。この取組は今後も継続する。



・道路沿いの緑地帯の視察(12:30~13:00)

昨年完成した道路沿いの緑地帯を視察。村の人々がその完成を記念して石碑(刻まれている言葉:緑の環境をこわさずに愛しながら支えて生きよう。GNC Japanと村の人々が協力してつくりました)を建ててくれていた。また喜ぶべきことに、この緑地帯を村人自ら拡張する工事をはじめていた。



### 3) 森づくり

・バヤンチャンドマン村郊外の植林地視察(14:50~16:00)

バヤンチャンドマン村郊外の植林地を視察した。ここは斜面なので1000本単位で確実に植林することが効果的である。



### 4) 人づくり

現在予定している学生参加のフィールドスタディツアーの新しい拠点として、バヤンチャンドマン村のGNC苗畑内に、研修・宿泊用のゲルを準備することを決定した。

## 4 セレンゲ県県庁訪問

#### 【日時】

2012年9月11日 9:20~12:20

#### 【場所】

セレンゲ県スフバートル市

#### 【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフ バトゾリグ

#### 【参加者】

一橋大学大学院 木村奈津子

一橋大学大学院 トウギー

滋賀大学 ドウルグーン

東京大学 ウンダーク

東北大学 ツエンゲル



### 1) 森づくり

自然環境局の森林課長ツェンゲルザヤさん、および、セレンゲ県事務総長(副知事にあたる)スヴダさんと今後の GNC のセレンゲ県における植林計画について話し合った。具体的には、植林する場所、本数を決定するためのスキームづくりを行い、それにもとづき契約を取り交わした。また、森林火災を防止するためのシステムづくりも協力して行うことを約束した。現在、森林火災の危険性に対する認知度が地元民の間で低いということなので、GNC としては、認知度をアップさせるためのチラシづくりを県庁と協力して行うことを決めた。なお、今後 GNC のために 1 か所広いエリアに植林できるように便宜をはかることを約束してくれた。飛び飛びの場所に植林することの非効率を避け、植林後の成果を広く知らせてゆくためである。



なお以下は、セレンゲ県の森林事情について、ツェンゲルザヤさん、スヴダさんからヒアリングした内容である。

セレンゲ県は、森林面積ではモンゴル国内で 2 番目(190 万ヘクタール)であり、他県と比較すると①モンゴル国内に生息する全ての種類の松(5 種類)がそろっている、②森林生産と伐採の量が全国トップで自然が豊かという特徴を持っている。セレンゲ県には 17 の村、5 つの地区があり、人口は 10 万人である。県の 4 年計画では、国の予算を使って毎年少なくとも 1500 ヘクタールを植林することになっており、大抵は 3000 ヘクタールを超えているということである。これは全国の植林

の 5 割を占めているとのことである。現在、県内にあと 24 万ヘクタールを植林しなければならない。火災、不法伐採、虫害が原因である。国、県だけの力では 80 年かかるので、海外の NGO 等の協力は不可欠とのこと。確かに、資源開発で国の財政は豊かになっているが、植林予算は、森林から得た利益の 85 パーセントと決まっているので、植林規模を拡大できずにいるとのことである。また、苗木会社は県内に 32 社あり毎年 2200 万本供給する能力があるが、マーケットが無く、しかも中国から安い苗木は入ってきているので、どこも経営上の問題を抱えている。そこで、現在は国が買い上げるという計画も持ち上がっている。なお、今回は 2 社の苗畑を実際に視察した。



## 2) 人づくり

現在、GNC が計画している学生参加のフィールドスタディツアーについては、セレンゲ県として全面的に協力することが可能であるとのことである。また、新しいプロジェクトとして、県内の幼稚園（60 か所）に森づくりの大切さを知らせる GNC オリジナル絵本「アカマツの赤ちゃんの夢」を配布し、子供たちが絵本の内容を表現した劇や踊りなどを発表するイベントを開催することとなった。



また、自然環境観光省付属トジンナルス環境保護区管理局を訪ね、現在 12 歳から 16 歳の子供を対象に実施されている充実した環境教育プログラムの内容の詳細について説明を受けた。





## 5 セレンゲ県植林地視察

### 【日時】

2012年9月11日 17:00～19:30

### 【場所】

セレンゲ県トジンナルス他

### 【参加スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

GNC Mongolia バヤンチャンドマン村担当スタッフ バトゾリグ

### 【参加者】

一橋大学大学院 木村奈津子

一橋大学大学院 トウギー

滋賀大学 ドウルグーン

東京大学 ウンダーク

東北大学 ツエンゲル

### 1) 森づくり

・2004年春・秋、2010年植林地視察

セレンゲ県における最初の植林地(トジンナルス・2004年春植林)を森林・動物センター長のジャムスランさんの案内で視察した。活着率は良く、成長も順調である。既に3メートル近く育ったアカマツもあり、松かさが出来ているものも見られ感激した。2005年愛・地球博のプレイベントの際の植林地(2004年秋植林)、および2010年の植林地を続けて視察した。



2004 年春 GNCはじめての植林地

2010 年植林地



2005 年愛・地球博のプレイベントの際の植林地(2004 年秋植林)

## 6 エコセミナーの実施

【日時】

2012 年 9 月 13 日 11:00~17:00

【場所】

ウランバートル市ハンオール地区トーラ村 GNC 教育センター

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

【参加者】

滋賀大学 ドゥルグーン

東京大学 ウンダーク

東北大学 ツェンゲル

一橋大学 サラ

今回は、今後のフィールドスタディツアー実施を想定して、少人数の大学生を対象にエコセミナーを実施した。参加者の一人サラさんは、モンゴル国立大学エコロジー教育センターの高校を卒業しており、GNC とエコロジー教育センターが共同で作ったキャンパス内の植物園の開園セレモニー(2005年)に学生として参加していたとのこと。GNC 教育センターに学生が11時に到着してから、1時間半は、モデル農場で野菜の収穫体験、農場全体(野菜畑、苗畑、苗床施設、防風林等)の視察を行った。その後、12時半から学生自らが収穫した野菜(レタス、かぶ、小松菜など)を使った昼食を一緒にとった。





13時から16時半まで、GNC教育センター内の一室で、全員の自己紹介、GNCの活動紹介に引き続き、テーマを決めて意見交換を行った。

テーマは以下のとおりである。

- 1) 今後実施予定のフィールドスタディツアーの具体的な企画案
- 2) 留学生の目から見たモンゴルと日本の違い
- 3) 将来の夢
- 4) 幸福とは何か

全員が問題意識を持ち、等身大の意見を率直に語っていたことが何よりうれしかった。また、全員が、国のため、みんなのために自分は何ができるのかを真剣に考えていたことに感動し、かつ将来への希望を感じた。



## 7 モンゴル国立大学エコロジー教育センター訪問

【日時】

2012年9月14日 9:00～11:00

【場所】

ウランバートル市 モンゴル国立大学エコロジー教育センター

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

2005 年に共同で開園したエコ植物園は、市の予算を使って、さらに充実した公園として整備されている。新任のセンター長、バトチュルンさんと、今後の具体的な協力関係について話し合った。1)モンゴル国内に原生している植物を公園内のハウスで育てる、2)エコロジー教育センターで実施している環境教育プログラムを充実させる、3)公園整備の専門的知識を提供する、4)公園内に日本庭園を造成する、5)公園内散策路沿いの植え込み用にニレの苗木を提供する等である。今後は GNC 教育センター長のツグトサイハンさんがセンター長と密に連絡を取り合いながら、これらのアイデアを実現させてゆくこととなる。



なお、エコロジー教育センターの公園担当のナサンさんに公園内を案内してもらった。子供連れの家族や恋人たちの憩いの場となっていたことがうれしかった。





## 7 第 18 学校訪問

### 【日時】

2012 年 9 月 14 日 11:30~12:30

### 【場所】

ウランバートル市 第 18 学校

### 【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 矢野明子

GNC Japan ネットワーク部 荻原洋子

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

第 18 学校の校内緑化は昨年訪問時に計画した通り大いに進んでいた。女性校長のプレブジャルガルさんに昨年に引き続き面会し、今後の具体的な協力関係について話し合った。1)校内緑化の一環として花壇を増やすための種を提供する、2)日本の中学校、高校と姉妹校になるために協力する、3)エコ教室を開催する等である。今後は教育センター長のツグトサイハンさんが校長と密に連絡を取り合いながら、これらを実現させてゆくこととなる。



付記: 今回のエコツアーは今後実施する学生参加のフィールドスタディツアーの予行練習の意味合いもあった。実際、各プロジェクトの担当者から話を聴き、現場を視察した上で、夕食前後に 2 時間程度参加者全員で振り返りのディスカッションを毎日行った。その中で、参加学生から多くの貴重な意見、アイデアを聴くことができた。

